

# 私の風景論

402

長年、写真撮影に携わってきた私ですが、子どものころからファッションやおしゃれが大好きでした。「シャンゼリゼ大通りでファッションショーがしたい」と、車

が通っているのにも知らずに夢見ていたほです。そんな私のもとに、昨年11月、思いがけない知らせが届きました。パリのファッションウィーク期間中に開かれるファッションショーの出展募集が始まったのです。いつか挑戦したいと思っていた舞台でしたが、それはまだまだ先の夢物語でした。ところが、当社の専務取締役が



2025年3月、パリ「ラ・ギャラリー・ブルボン」でのファッションショーにて

「ぜひ出展します」と即答。着物やドレスのメーカーとの取引はあっても、自分で服をつくった経験はなく、私は驚きました。しかもショーは3月初旬。準備期間はわずか3か月しかありません。「どう

するの？誰が服をつくるの？」と心の中で叫びました。「自然を衣裳に」挑む

しかし、悩んでいる暇はありません。私はフォトグラファーです。ならば写真を使った生地を作り、日本の着物スタイルを取り入れた作品をパリで発表しよう、と腹をくくりました。写真がフレームを飛び出し、洋服や着物になる。そんなコスチュームを生み出す

挑戦が始まったのです。最初に撮影した作品では、スタジオで撮影した作品では、さまざまな表情を写し取った写真を布にプリントし、上田和裁様のご協力のもと、振袖風のコスチュームに仕立てました。色彩と生命感をそのまま纏う

試みは、自身の写真家としての歩みと重なり、次第に「風景を衣裳にする」という

とも呼ばれ、内側から水の帳を眺められる特別な場所です。私はそのしぶきを布地いっば

## 熊本の森と滝を纏って 国境越えて布で表現

熊本の森と滝を纏って

堤 つつみ あこ

株式会社ラブリントン代表取締役

発想へと広がっていききました。そして題材に選んだのが、熊本の自然です。崇城大学の甲野善一郎教授の作品「小国杉」の写真、そして生徒から公募した中から私が引かれて選んだ倉橋功さんの作品「鍋ヶ滝」。熊本の自然が持つ力強さと繊細さを、衣裳を通して世界に伝えたいと思ったからです。

1965年熊本市生まれ。1990年、カリフォルニア州 Brooks Institute of Photography 卒業。Bachelor of Arts 取得。2002年、全国写真展覧会にて内閣総理大臣賞受賞。2025年、スペイン王室の旧パリ邸宅「ラ・ギャラリー・ブルボン」で開催されたファッションショー、「サティスファッションパリ」に出展。株式会社ラブリントン代表取締役(旧株式会社堤写真館)。熊本市中央区在住。

小国杉は、まっすぐに伸びる幹と、規則正しく連なる森のリズムが特徴です。その姿を生地にプリントすると、ただの樹木の模様ではなく、森そのものの息づかいを映し出しました。モデルが袖を翻すたび、舞台の上に熊本の森が広がるように感じられました。一方、鍋ヶ滝は「裏見の滝」とも呼ばれ、内側から水の帳を眺められる特別な場所です。私はそのしぶきを布地いっば